

アイセンターのご紹介

令和3年5月17日に、眼科外来が北館1階より南館8階に移転し、アイセンターとして稼働を開始しました。



アイセンターの構成や機能について

アイセンターでは、受付から診察終了まで、眼科に関する診療を、手術以外ほぼセンター内で完結出来るようになっていきます(全身検査やMRIといった、他科と共通するものは除きます)。

眼科検査では、それぞれ特殊な装置を用いて計測を行うため、多くの検査機器が必要であり、暗い所での検査を要するものも多く、特別な検査室を設けています。

また、治療には、硝子体注射やレーザー等を行うことができる処置室が必要なため、診察や検査の他、一部の治療も行えるように、機能の拡充を図っています。

これらの診察室や検査室、処置室に加え、受付や待合室も備え、複数の機能を集約し、センター化しています。

アイセンターで行う検査

眼科で行う検査には様々なものがあります。よく知られているのは視力検査ですが、このほか視野や色覚、眼球運動や眼位・両眼視といった機能を調べる検査、また角膜や水晶体、網膜といった眼球の構造を調べる顕微鏡検査や眼底検査、超音波検査、断層検査等、多岐にわたります。

これらの検査は、採血やレントゲン撮影といった他科と共通するものではなく、ほぼ眼科のみに限られるため、眼科外来の中で行う必要があり、すべてアイセンター内で行うことが出来ます。



【蛍光眼底造影検査】

薬液を注射し、特殊なカメラを使って撮影を行うことで、眼の中の血流や異常な血管などについて評価します。

アイセンターで出来る治療と、新しく出来るようになったこと

眼科外来ではこれまで、検査のほかに、レーザーや小手術、眼球周囲への注射、点滴等の治療も行ってきました。

今回新たに処置室を備えたことにより、これらに加え、これまで中央手術室に移動して行っていた硝子体注射等の治療も、アイセンター内で行えるようになります。

硝子体注射は、黄斑変性等の治療として、近年急増しているもので、1日ですべて受けられる患者さんが多くいらっしゃいます。硝子体注射は、治療に要する時間(概ね数分程度)の割に、移動や着替え等の手間がかかるため、治療対象者の多くを占める高齢者の方にとって、負担は小さくありませんでした。

今後は、アイセンターでの施行が可能となるため、移動も少なく、足の不自由な方や付き添いが必要な方などにとって、ある程度負担が軽減出来るものと期待されます。

また、緊急に治療が必要となった場合は、処置室が備えられているため、これまでより更に、迅速に対応出来ると思込まれます。



スタッフ

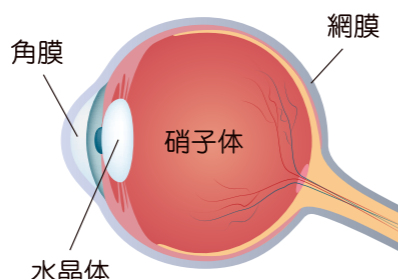
医師や視能訓練士といった眼科専門の職種に加え、看護師やメディカルクラークも眼科診療の経験を積んだプロフェッショナルです。アイセンターでは、これら様々な職種が力を合わせて、チーム医療を行っています。



眼科 部長 鷲尾 紀章 Washio Noriaki

【資格】 医学博士、眼科専門医

【主な診療分野】 網膜硝子体、白内障、緑内障、神経眼科、小児眼科



【眼球の構造】

【硝子体注射】

眼の中に薬液を注入します。小さな眼球の特定の部位に注射するため、顕微鏡を使って行います。



センター化によるメリット



専門的な治療もセンター内で可能に



移動などの時間が減り、患者さんへの負担が小さくなる



緊急時に迅速に対応できるように



新設されたアイセンター

【専用エレベーター】①
 外来としては珍しく、8階の高所に位置しますが、専用のエレベーターを設け、往來の不便さや混雑の解消を図っています。

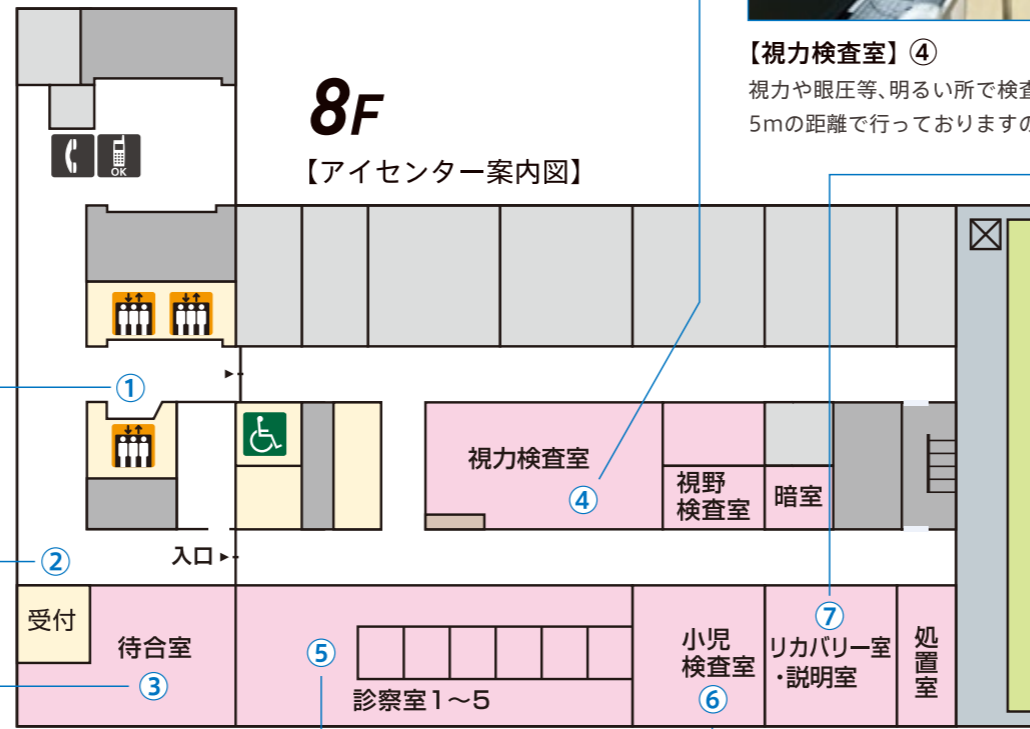


【受付】②
 アイセンターの入り口にあり、保険証の確認や診断書の受付などもここでを行います。



【待合室】③
 南館8階にあり、また窓も大きいので見晴らしがよいです。天気の良い日には、富士山を眺めることも出来ます。

アイセンターへのアクセスについて
 病院玄関から最も近いエレベーターをアイセンター専用とし、スムーズにお越し頂けるように配慮しています。
 また、アイセンターの床などに大きく案内表示を施し、検査室などがなるべく分かりやすくなるように工夫しています。
 これまでの眼科外来の待合室は混雑しており、また他科との共用でもあったため、座れない方や遠くでお待ちになる方がいらっしやいました。
 アイセンターの待合室は専用であり、スペースもこれまでより広くなりました。密を避けつつ、多くの方に座って頂くことが出来るようになっていきます。



【視力検査室】④
 視力や眼圧等、明るい所で検査を行う部屋です。視力検査は5mの距離で行っておりますので、大きな部屋が必要です。



【リカバリー室】⑦
 手術や処置の後に気分が悪くなった場合など、速やかに対処出来るよう、処置室のすぐ隣に配置しています。

アイセンター概要

これまで北館1階にあった眼科外来を、眼科診療に特化した外来スペースとして、南館8階に移転、独立させたものです。これまでの基本的な外来機能のほかに、一部の治療もセンター内で行えるようになります。
 受付・待合室・診察室(レーザー室を含む)・検査室・リカバリー室・処置室で構成され、この中に各種特殊検査室や説明室等が付属します。



【小児検査室】⑥
 気が散りがちなお子さんでも検査が受けやすいように、仕切りを設けるなど配慮しています。



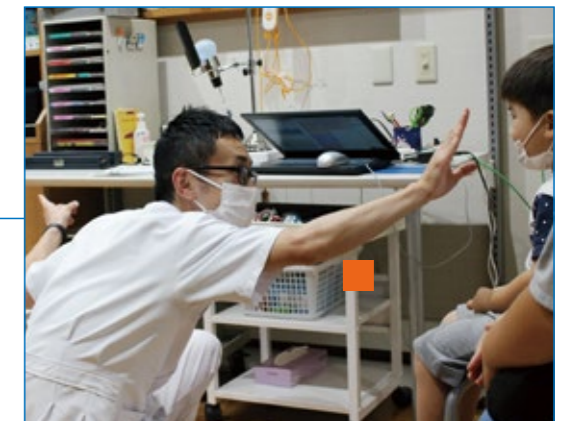
【小手術・処置】⑤
 結膜嚢胞・結膜下異物といった疾患に対する手術の他、ステロイド剤の眼球周囲への注射や眼瞼痙攣に対するボトックス注射といった処置も行っています。



【診察室】⑤
 医師による診察を行う部屋です。現在5つの診察室で行っております。



【レーザー治療】⑤
 糖尿病網膜症、網膜裂孔や後発白内障といった疾患に対して行う治療です。診察室の近くにあり、診断後すぐに治療に移ることが出来ます。



【視能訓練】⑥
 小児の弱視や斜視の治療も行っています。成人の患者さんとは別のスペースですので、検査や治療に集中しやすい環境となっています。